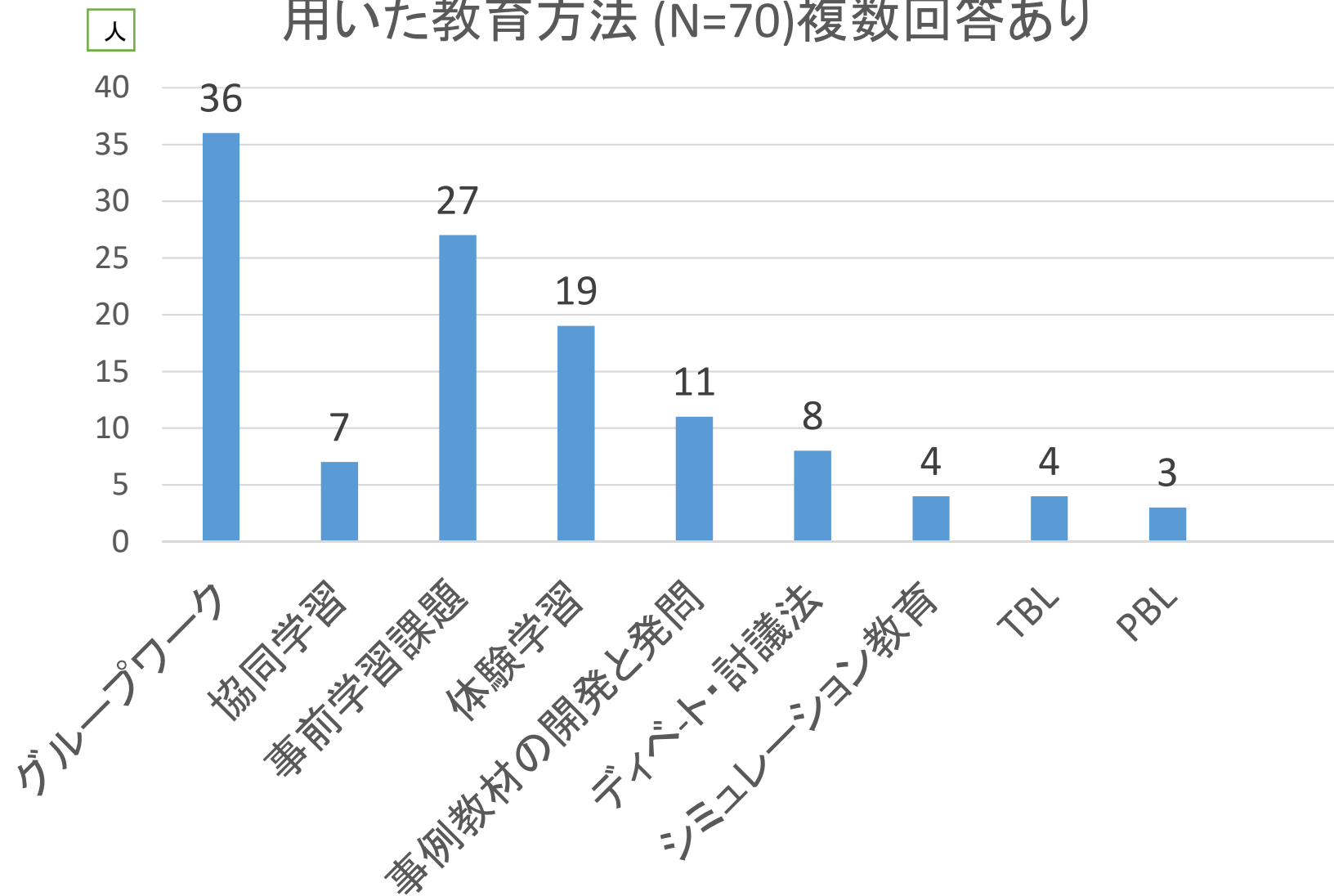


さまざまな教育方法を用いた 教育実践による 講義型(一方向型)授業からの脱却

日本看護学校協議会 会長
鹿児島医療技術専門学校
(専)京都中央看護保健大学校(講師)

池西 静江

図 ベテラン教員が“手応えを感じた授業”で
用いた教育方法 (N=70)複数回答あり



平成27～29年度日本看護学校協議会教務主任養成講習会受講生対象、看護学教育方法論授業時の調査より

学生が主体的に学ぶことのできる 効果的な教育方法

①反転授業(事前学習課題)

②協同学習

「小グループの教育的使用で、学生が自分自身の学びと仲間の学びを最大限にするために学び合う学習法」¹⁾

③TBL (Team Based Learning)

④PBL法 (Problem Based Learning)

⑤ディベート・討議法

⑥体験学習・シミュレーション教育

1)安永悟著 活動性を高める授業づくり-協同学習のすすめ- p67 医学書院2012年

反転授業の基本

基本的なコンセプト

従来は教室で行われていたことを自宅で行い、従来は宿題として自宅でやっていたことを教室で行うこと²⁾

2つのブレンド型教育

事前学習
オンライン学習



対面授業

しかし、

養成所においてはオンライン教育のハード・ソフトが十分に整ってはいないが、対象は成人の学習者であり、テキスト+すでにあるDVD等の視覚教材での学習で、一定の成果が期待できる

反転授業の先駆者 バーグマン²⁾
「すべての反転授業でビデオやオンラインを指導
ツールとして利用しているわけではない」
「反転授業の軸はビデオやオンラインではない」

反転授業の
軸を大事にし
つつ、オンラ
イン教育を行
いにくいところでも可能な
池西型反転
授業

²⁾ ジョナサンバーグマンほか著 上原裕美子訳 反転授業 p40・188オデッセイコミュニケーション 2015

池西型反転授業の展開例

事前課題

1週間前にワークシートを配付して各自、テキスト等を参考に学習してくる

対面授業(90分)

導入 本時の主題と学習の意義

5分

第1段階

主として完全習得型学習
協同学習(シンク・ペア・シェア)と教員の補足解説

40～
50分

第2段階

応用課題に取り組む-知識を元に観察や看護を考える
協同学習(ラウンド・ロビン)と教員の補足説明

20～
30分

まとめ 本時の主題の理解度を問うポストテスト

10分

反転授業を実施する上で大切なこと

- 教員主導（説明中心の授業）ではなく、学生主導の教育である。
- 教員は対面して指導することのメリットを最大限に活かして、仲間とともに学び合える効果的な応用課題を与える。
- それによって完全習得をめざし、応用能力を育成することにつなげる。

今、私がこのような反転授業を取り入れている科目・単元は「解剖生理学－呼吸器」「症候論」「対象別保健論」など、多岐にわたる。

反転授業で期待される効果

- 学生の活動性が高い参加型授業で、主体的な学習活動を育成することが期待できる。
- 小集団で話し合い、応用課題に取り組むことで、知識の活用能力、思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを育成することが期待できる。
- 学生個々の学習状況、到達度が把握しやすく、個別指導に役立てることができる。

TBL (Team Based Learning) の特徴

- チームの協同が生まれる学習方法である。
- 学生が主体的に学習する。
- 多くの知識の習得を期待する学習にはよい。
- 教員の豊富な専門的知識が必要である。
- 教員は指示と見守り、最低限の介入でよい。
- 学生数が多くても一人の教員ですすめられる。

TBLにおける学習のプロセス6つのステップ

ステップ1 事前学習課題(予習)



ステップ2 個人テスト



ステップ3 チームテスト



ステップ4 アピールタイム



ステップ5 教員によるフィードバック

1単位
時間



ステップ6 チームで応用課題に取り組む

1単位
時間

例) 疾病理解の看護学的視点／症候論(専門基礎分野) 1単位30時間うち20時間

授業計画

回数	学習内容及び学習成果	方法
1	1) 疾病の成り立ちに関与する因子が理解できる 2) 関与する因子を理解し、予防活動の理解につなげる	講義
2	肺の悪性腫瘍① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL
3	肺の悪性腫瘍② 事例の身体に起こっていることを理解する(病態関連図)	
4	肺の悪性腫瘍③ 病態関連図のチーム発表(パワーポイントで)	
5	肝臓の炎症① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL
6	肝臓の炎症② 事例の身体に起こっていることを理解する(病態関連図)	
7	心臓の循環障害① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL
8	心臓の循環障害② 事例の身体に起こっていることを理解する(病態関連図)	
9	腎臓の炎症① 個人テスト・チームテスト・ミニ講義・アピールタイム	TBL
10	腎臓の炎症② 事例の身体に起こっていることを理解する(病態関連図)	

【TBLの展開例；肺の悪性腫瘍】

事前課題：テキストの指定頁を読んで理解しておく（予習）

回	内容	方法	時間	配点
1	個人テスト	20問4肢択一（時間10分・10点配点）	10分	10点
	チームテスト	1回目 チームで個人と同じ問題を調べて解答する。	25分	5点
		2回目 不正解の問題を再度調べてチャレンジする。	5分	3点
	アピールタイム	個人学習、チーム学習を通して明らかになった、テストについての疑問点をアピールする。アピールが認められたら加点する。	20分	1点加算
	フィードバック	教員による解説及びミニレクチャーを行う。	15分	
2	応用課題	1回目の基礎的な知識を活用して、応用課題にチームで取り組み、発表資料を作成する。	90分	
3	発表	応用課題に取り組んだ成果を・ポスターを使って発表する。他のグループ発表を見聞きして相互評価を行う。	90分	学生・教員評価各5点

ステップ6 チームで応用課題に取り組む

90分(1単位時間)を使い、発表の準備(ポスターづくり)までの協同学習を行う。全員が課題に取り組めるように見守ることが必要で、持ち帰り課題にならないように、授業時間のなかで効果的に取り組めるように時間管理を行う。応用課題は以下の事例を提示し、事例の身体のなかに何が起きているか、**病態関連図**を使ってわかりやすく説明する、というものである。

58歳男性、山下さん 肺の悪性腫瘍
喫煙歴38年(1日20本)、仕事のストレスもあり、タバコがやめられなかった。3か月前から咳・痰があったが、放置していたところ、2週間前に血痰を認め、受診。検査の結果、「扁平上皮癌」「右上葉無気肺」と診断され、癌の進行度の精査、治療方針の決定のため入院。ここ数日、労作時に軽度の呼吸困難も自覚している。「**仕事が心配**」という。

授業評価（自由記載）

42人中回答者数22人（重複あり）

- 毎回の事前学習が大変（8） →
- 関連図の作成が難しい（6）
- 仲間で教え合うと理解が深まる（2）
- 応用課題（事例）があるとやる気がでる（3）
- 解剖生理学の知識の重要性が理解できた（4）
- 看護に必要な知識だと理解できた。頑張る。（4）
- 機能障害によりおこる症状との関連が理解できた。
- 説明がわかりやすかった（4）
- 授業のすすめ方にテンポがあってよい。
- 集中して、楽しく学ぶことができた。（3）

1単位45時間の学修量
30時間対面授業を実施すると15時間自己学習が必要。
1回につき1時間程度は事前学習を行うものと想定して授業計画を立てている。

まとめ

- ◆ 養成所においても、今回紹介した教育方法を取り入れ始めており、学生主導の学習の効果を実感しているが、各養成所で十分に浸透しているとは言い難い。
- ◆ 看護基礎教育の充実を図るためには、単位数増よりも、今回紹介したようなさまざまな教育方法の導入や工夫をまず行う必要があるのではないか。
- ◆ 学生主導の学習を養成所においても浸透させるには、看護教員の能力向上が欠かせないことから、専任教員養成講習会等で教育方法に関する教育内容の充実を期待したい。